

サポートツール全国キャラバン2009「教材教具研修会」in新潟

発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた
指導・支援の具体的方法

研修会報告書

2009年11月1日

新潟市総合福祉会館5階 大集会室

主催：特定非営利活動法人 全国LD親の会

共催：新潟いなほの会—発達障害児者親の会—

【研修会開催趣旨】

2007年4月、学校教育法が改正され、特別支援教育が法的に位置づけられた。小、中学校での支援が本格的に始まり、LD等の発達障害がある児童生徒一人一人のニーズに応じた適切な指導及び必要な支援の具体的方法が求められている。全国LD親の会では、2006年度から2年間にわたり、文部科学省から「障害のある子どもへの対応におけるNPO等を活用した実践研究事業」の委嘱をうけ、「LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害向けの教材・教具の実証研究」を日本発達障害ネットワーク（JDDネット）の加盟団体等と共同で行い、学校や療育機関での先行事例・有効事例、家庭での工夫等による教材・教具のアイデア、事例を収集して、LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害のある子どもの困難やニーズに合わせて有効なサポートツール（教材・教具など）を体系的に整理し、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を作成した。

<http://www.jpald.net/research/index.html>

2009年度からは、日本財団の助成を受けて、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を質、量とも充実させ、普及させるための事業に取り組んでいる。

- 1、子どもの成長を見据えた長期的な視野にたったサポート
- 2、子どもを中心に、関係する多方面における専門家と連携したサポート

という趣旨のもと、教育現場における教材・教具のみならず、就労・自立を見据えた支援に繋がる子どもの生活全般にわたるサポートも含めて個別の指導計画作成の参考となるよう、身近な教材・教具を活用していく具体的な支援の普及を目的に研修会を開催する。準備や開催後の連携を視野に入れて、全国LD親の会加盟の地域の親の会を中心に、特別支援教育士資格認定協会S.E.N.Sの会各支部会・各都道府県作業療法士会と連携を図って進めていく予定である。

2009年度は、2009年11月の新潟市と2010年2月の佐賀市での開催が決定しており、2010年度は秋田市での開催が予定されている。

今回の新潟市での開催は、新潟いなほの会—発達障害児者親の会—が中心になって進めている。新潟いなほの会は、多くの教員が賛助会員として会の活動に協力しており、また、感覚統合学会や作業療法士との関わりもあることから、LD等の発達障害がある児童生徒に対しての質の高い支援をおこなっていくための学校教育段階での連携も可能と思われる。多方面における専門家と連携し、身近な教材・教具を活用していく具体的サポート例を提示する場としたい。

【研修会開催要項】

日 時：2009年11月1日（日）10：00～16：30（9：30受付）

会 場：新潟市総合福祉会館5階 大集会室

新潟市中央区八千代1丁目3-1 TEL 025-248-7161

新潟駅から 昭和大橋経由入船営業所行 春日町バス停下車

八千代橋経由入船営業所行 逋信病院前バス停下車

水島町経由県庁～西部営業所行 春日町バス停下車

徒歩 新潟駅から徒歩15分（約600m）

バスセンターから徒歩10分（約400m）

プログラム

- 1、講演1 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」
～使い方で変わる教材の有効性～

講師 山田 充 氏（特別支援教育士スーパーバイザー）

堺市立日置荘小学校通級指導教室教諭・堺市特別支援教育専門家チーム・
堺LD研究会・「コミ☆トレ」番組委員

- 2、講演2 「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」

講師 嶋谷 和之 氏（日本感覚統合学会テストメカニクスインストラクター）

大阪市更生療育センター作業療法士・大阪府作業療法士会・発達部門副代表

- 3、ワークショップ

主 催：特定非営利活動法人全国LD親の会

共 催：新潟いなほの会—発達障害児者親の会—

後 援：新潟県教育委員会、新潟市教育委員会、一般社団法人日本LD学会、
社団法人日本作業療法士協会、日本感覚統合学会、
社団法人新潟県作業療法士会

事務局：〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-5 バロール代々木415

TEL/FAX：03-6276-8985 E-MAIL：jimukyoku@jpald.net

URL：http://www.jpald.net/

「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用

～使い方で変わる教材の有効性～

報告者：山田 充（特別支援教育士スーパーバイザー）

講演は、具体的な子どもの姿とその子どものもつトラブルを紹介しながら、その要因が思いもよらない原因で起こっていることを説明することから入っていった。そのことに対応しないと二次障害となり、現場で問題行動を起こす子どもたちの多くは、学習困難への支援がしてもらえず、そこから問題行動に発展する二次障害であることが多い。さらに、子どもの算数のテスト問題などを提示しながら、誤りの要因をきちんと考えていき本人の特性と結びつけることで、学習支援の具体的な方法を見つけることが出来ることを紹介した。

このように子どもの様子を紹介する事例ベースで、講演をすすめ、その事例の子どもへの対応を紹介する中で、実際に使用している教材（データベースで紹介されている物も含めて）のコンセプトを紹介するとともに具体的な使用方法について説明していった。

次の支援方法を障害特性ごとにまとめて説明した。LD状態への対応は認知への支援、ADHD傾向への支援は集中への支援、広汎性発達障害傾向の子どもたちには、その特性の理解と特性に沿った道筋の支援が必要であることを紹介した。

2時間に及ぶ講演であったが、参加者はとても熱心に聞いて下さり、たくさんの有り難い感想を頂いた。感想の中で特徴的なことは、

- ・ 具体的な事例の説明なので、とてもよくわかった。
- ・ 具体的な指導の方法が教材などとともに示されたので、明日から、即実践してみようと思った。
- ・ 保護者であれば自分の子どもさん、教師であれば担当している子どもさんのことを思い浮かべながら聞くことができた。
- ・ 問題行動の要因をしっかりと考える事の必要性を何度も強調してもらったのでよくわかった。
- ・ アセスメントの方法やイメージがよくわかった。
- ・ 指導のヒントをたくさんもらった。支援の方法を考える手がかりになった。
- ・ もっと聞いて言いたかった。

などの感想が寄せられた。キャラバンの目的の達成が感想から感じられた。

講演 2 報告

「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」

報告者：嶋谷 和之（日本感覚統合学会テストメカニクスインストラクター）
大阪市更生療育センター 作業療法士
（社）大阪府作業療法士会 事業部発達部門

ねらい

普段私たちは、何気なく姿勢を保ち、運動を行い、手を使って物や道具を扱っているが、これらはほとんど意識されることなく自動的に行っていることが多い。そのため、感覚運動機能を背景的な要因とする子どもの困難さに気づきにくい、分析しにくいという場合も少なくない。

今回の研修のねらいは、以下の2点である。

- ・何気なく行っている活動を意識化し子どもの困難の様子と重ね合わせることで、手立てにつなげるきっかけとする。
- ・すぐにできる物や道具の工夫で、子どもの活動がより行いやすくなることを知っていただく。

また、感覚運動機能の観点からの子どもの見方を説明し、後で行う事例分析のワークにつなげることも目的とした。

内容

- ①作業療法士の分析の視点について説明を行った。
- ②感覚運動機能について、以下の2点についてより具体的に説明した。
 - ・安定した姿勢が保証されて、効率よく手を使い物や道具を操作できることを説明した。
 - ・感覚情報が食物と同じように、人間が生きていく上で必要な栄養素と同じような役割を持つと捉えることも可能である。子どもに必要な感覚情報を、日常生活の活動の中で提供していくという視点を説明した。
- ③大阪府作業療法士会パンフレット「発達障がいのある児童・生徒への学習および学校生活援助」作業療法士からの提案から、「よくある相談」のいくつかを紹介し、困難の要因と手立ての例を説明した。

紹介した「よくある相談」は、以下のとおりである。

 - ・授業中の姿勢の保持が難しい
 - ・筆圧が強すぎる、弱すぎる
 - ・定規やコンパスがうまく使えない
 - ・はさみがうまく使えない
- ④事例を通して子どもの困難さ、背景的な要因、手立てを具体的に説明した。
 - ・姿勢の保持に困難さのある事例。体の緊張を高める感覚が分かりにくく、自分の体の状態を把握しづらいことが背景的な要因。滑り止めシートを座面に敷くと臀部の前ずれは改善するも、左右への崩れに対しては改善が認めにくくハートリーフクッションが必要と考えられた。
 - ・椅子を動かすことが多く、座面の縁で座りたがる事例。背景的な要因は触覚と運動の感覚

の欲求が高いこと。感覚の欲求を満たせるよう座面にクッションを付けると安定して座ることができ、より授業を集中して受けることができた。

- ・鉛筆がうまく持てず書き続けると疲れる事例。指先の感覚が鈍く指先に力が入りにくいことが背景的な要因。鉛筆グリップを付けると三指で持つことが可能となり疲れずに書くことが可能となった。

⑤子どもが努力して物や道具の操作を行っている場合、出やすい運動のサインを説明した。このような反応を捉えることで、子どもの努力を認めることができること、過剰な負担をかけることがないような工夫、活動を細かく段階付けにつながることを説明した。

⑥教材教具の工夫を実際に展示した。実際に試用していただく中で、ちょっとした工夫で、子どもたちの活動がより行いやすくなることを体験していただいた。

【展示物】

- ・ハートリーフクッション
- ・滑り止めシート
- ・滑り止めを貼った定規、分度器
- ・滑り止め加工した三角鉛筆
- ・太い三角鉛筆、色鉛筆
- ・各種の鉛筆グリップ
- ・自由樹脂で加工した鉛筆グリップ

また、新潟県の作業療法士の協力を得て、作業療法士の特別支援教育の取り組みに関する資料を配布した。

ワークショップ 報告

ワークショップは、6名～8名で9グループに分かれて行なった。各グループには特別支援教育士と作業療法士を中心に教員、保護者などで構成されていた。

はじめに、対象事例（小学校5年生の通常学級に在籍・通級指導教室に通っている）本人の算数と国語のテストと日記帳の資料が配布され、通級指導教室での授業のようすのビデオを20分位をみてから、山田先生と嶋谷先生から「なぜこのような文字を書くのか計算のとき方をするのか」「どうしてこのような姿勢や行動なのか」「なぜ、このようになるのかを考えてほしい」といった注意点の説明があった。その後各グループで意見交換と質疑応答を行なう。

各グループからの意見

プリント

- ・「ん」「わ」「は」などの字を書く時に手首の返しがうまくいかないのではないかな。
- ・とめ、はね、はらいがうまくかけていない。
- ・文章題は解けているので意味理解が出来ているが作図はできていないので空間認知の問題があるのではないかな。
- ・集中が続かなくて、国語の問いに最後まで答えられていない。
- ・消しゴムを使うのが面倒くさそうである。など

ビデオ

- ・机をガタガタさせているので感覚入力に問題があるのではないかな。
- ・姿勢保持がむずかしい。ボディイメージがつかめていないのではないかな。そのために細かい作業が苦手なようす。
- ・板書のとき、ペタッと座っているのは筋力が足りないのではないかな。
- ・足が常に動いている
- ・鞆の置き方や片付けのようすから手順を踏んで一つ一つ処理するのが苦手の様子である。など

山田先生と嶋谷先生からのアドバイス

<山田先生>

- ・考える力と書くスピードが合わないために字が止め、はねなどができていないし、じっくり考える力が弱い。人に読める字をかけるような指導が必要である。
- ・割り算は大きい数を小さい数で割ることと思込んでいるようである。
- ・算数の筆算や国語の書き写しの問題で問題のルールがあいまいに理解している。そして自分でふり返りをしていない。自己中心的な動きで人の動きが見えていない。そのために話をゆっくり、丁寧に聴くように教えていくが大切である。

<嶋谷先生>

- ・文字を書くにあたり、止めて動かすと言う一連の流れが出来ていなくて書くスピードが早くて角がなく、はね、はらうなどが難しい。ソフトを使用したり、他者を見る機会を設けるようにする。
- ・黒板に書いている時にひざが曲がっていないや机に顔をこすったりしているところから筋肉がやわらかいために緊張感がない。机を動かすことで自己刺激を求めている。
- ・机に10kgのおもりをつけて動かないようしたり、机の足元に刺激のあるものを置いたりする。

成果

- ・今回の研修会では1つに事例で教育から山田先生、作業療法士から嶋谷先生といろいろな視点からのアドバイスと意見交換ができてよかった。
- ・新潟県における特別支援教育士と作業療法士とお互いに意見交換でき、今後の連携につながっていくことを希望する。

【アンケートのまとめ】

出席者数—71名 回収枚数—38枚 (回収率 54%)

★所属

- *保護者 (13名) — 新潟いなほの会会員 10名, その他 2名, 不明 1名
- *教員 (14名) — 幼稚園 0名, 小学校 7名, 中学校 2名, 高等学校 0名, 養護学校 3名, その他 2名 (行政、県立教育センター)
- *作業療法士 (8名) — 医療 3名, 療育 4名, 福祉 0名, その他 1名 (教育)
- *その他 (3名) — 教育委員会 1名, 小学校特別支援学級介助員 1名

＜本日の企画はいかがでしたか？ ご感想をお聞かせください。＞

(1) 講演1「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用 ～使い方で変わる教材の有効性～」

保護者

- ・具体的に事例を交えて、分かりやすい内容でした。自分の子に対しても、じっくりと何がネックになっているのかを見極めていく必要があると思いました。
- ・保護者として、問題行動が小学校に少し出ていましたが、その当時は、その問題行動だけを指摘され、それにより同級生から言葉のいじめ等を受けたりしました。中学では逆に問題行動が無いために、よく分かっていただけなく、本人だけが二次障害的になりました。親の方もそれに気が付かなかったりと、本人を苦しめてしまったと反省しております。講演のように一人一人のニーズに合わせ、考えを変えて、頭をやわらかく、本人の困り感により沿っていただけると、ありがたいのですが。
- ・とても面白く、例題も分かりやすく、もっと聞いていたかったです。学校の先生と相談して、取り入れていきたいです！
- ・山田先生の講演は、知りたい内容が盛りだくさんでしたが、普段の子どもの学校生活に照らし合わせながらお聞きできたので、本当に良かったです。時間があっという間に過ぎました。今後は、山田先生だったら子どもの行動をどう見るだろうナーという視点で見ようと思いました。
- ・具体的な支援の仕方、教材を紹介してもらいながら、とても分かりやすい内容でした。子どもの困難な点にスポットを当て支援を工夫する大切さを改めて思いました。
- ・二次障害になるポイントを見つけることが、その後の生活に大きく影響しているということが分かって良かった。問題行動だけに目を向けがちだが、そこに至る経緯を辿って、またそれに見合った教材を探してみたいと思った。
- ・問題行動を起こす元になる問題を解決しなければ、問題行動は無くならないということが、何度も言われて、ようやく体に入った気がします。
- ・例も分かりやすく、具体的な声かけ、方法も聞けて良かったです。

教員

- ・教材の具体的な活用が分かってよかった。あの子にこの方法が合うな、あの子にはこれが必要だと、子どもの顔が浮かんできた。
- ・たくさんの事例と、教材の紹介が勉強になりました。子どもの困っている原因の見極め方、そこに照準を当てた具体的な支援…たくさんの事例の中で、研修を深めていきたいです。
- ・問題行動の背景にあるものが、ちょっとした認知の偏りから来るものであることを知り、そこ

の部分にアプローチすることが大切だということを学びました。視点が広がったように思います。

- ・現場で陥りやすい大切な点を、とても分かりやすく紹介していただきました。できたら、もっと詳しくお話をお聞きしたかったです。「特性に応じた支援」ということについて考えさせられる良い機会でした。
- ・教材の具体的な使い方を教えていただいた時、受け持ちの子どもの姿を思い浮かべました。子どもの困り感を明らかにするところからまた始めます。
- ・私たちが、子どもたちの特性を見抜く力をどれだけ持っているか。まだまだ足りないと思いつながら、お聞きしました。個々に違うところを、具体的にサポートできる力をつけたいと思いました。
- ・お話サイコロ等、たくさんの具体的な支援の教材・教具等、ありがとうございました。
- ・「特性」の分析の仕方、見方に新しい視点をいただいた。

作業療法士

- ・原因から対応まで、分かりやすくお話しいただけて、良かったです。より具体的な教科での対応法はとても勉強になりました。
- ・問題行動の要因・根本をきちんと見極め、適切な対応をすることの重要性を改めて感じた。両親・学校・セラピストと同じ意識・目的を理解し、サポート・アプローチすることを徹底していこうと思った。具体的な教材・支援方法がたくさん紹介され、大変勉強になりました。
- ・学習課題、算数、国語での難しさの分析、それに対する対応や教材の紹介がされてあり良かった。
- ・最近、発達障害の子の支援を、より細かく（特徴に合わせて）していく必要性を感じています。そのためにはアセスメントが大事だと思うのですが、その観る目を養うことができました。大変ためになりました。
- ・教育現場での実際の支援方法が分かってよかった。
- ・非常に具体的で、分かりやすかった。子どもの成長と発達を見据えた話しで良かった。

その他

- ・事例に基づいているため、非常に具体的で分かりやすいお話でした。もっともっとお話をお伺いしたかったです。あっという間に時間が過ぎました。明日からすぐ活用できそうな支援がたくさんありました。原因にきちんと対応していくことの必要性を改めて感じました。そのためにも、目の前の子ども達をしっかりと見てどこに困難を感じているのか感じ取っていきたいです。
- ・非常に面白かった。具体的で分かりやすく、子どもだけでなく、自分のことにも応用できると思い、興味深く聴かせていただきました。きめの細かい、本当の意味での個別の対応。大変さを感じました。頑張ってください。

(2) 講演2「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」

保護者

- ・人間の普段やっている動作一つ一つが、細かい動きの組み合わせであること、と考えると、それだけでもすごいと思いました。我が子にも思い当たる点がありました。
- ・いろいろな教材もあり、それをいろいろな方法で幅を広げて使っていくことに感嘆しました。
- ・こんな使い方があるのか、こうすればいいのか…と、とても勉強になりました。滑り止めシートのいろいろな使い方がとても良かったです！
- ・教材を実際に見ることができて良かったです。

- ・本人の目線になることが大事だと思いました。苦手感に寄り添って支えて、できる喜びを自信にしてあげたいと思いました。
- ・はさみ・鉛筆と何気なく使っているものにもいろいろな側面があり、より上手に道具が使えるように工夫したいと思った。
- ・運動面から理解できました。
- ・よく工夫された道具があるのだな…と感心しました。
- ・いろいろなことがあるのねえと思いつつ、その状況で工夫すること以外、基本的に筋力をつけることとかも考える必要があるかなーとも思いました。

* 教員 *

- ・運動機能と結びつけて解説していただけると、さらに面白かったと思います。講演1との違いが出て良いと思いました。
- ・作業は一連の流れ…それをいかに細かく分析し、つまずきに照準を当てること、OTの先生の専門性に、これからも教えていただきたいと思いました。
- ・感覚運動という視点で子ども像を見ることがなかったが、今日の講演を聞き、その視点で教具を工夫してみることもできるなあと、大変勉強になりました。
- ・ほんの少しの工夫で子どもが楽になるのだろうと思われるものを多く紹介していただき、良かったです。
- ・具体的なお話と、教材の実際の紹介があり、とても分かりやすかったです。今まで肢体不自由児への配慮と思っていたことが、発達障害児にも使えることが分かり、新鮮でした。
- ・医療に関わっていない子どもの特性を、どのようにとらえていけば良いかを改めて感じました。体の成長との関連がやはり大きいんですね。
- ・運動機能まで考えて教材を作ったことがなかったので、参考になりました。
- ・OT視点は、常にこちらで考えていたことが形になっていく感じで分かりやすく良かったです。
- ・感覚統合の話、分かりやすく良かったです。
- ・養護学校は手作り教材が多い。ちょっとした工夫でできる物、考えるヒントになります。
- ・作業療法を実際にされている方より、支援について心理機能的側面・環境的側面から具体的にお話をしていただき、ありがとうございました。

* 作業療法士 *

- ・自分がOTなので、分析から対応まではとても身近でした。新潟ではOT(発達分野)が少なく、認知度がかなり低いので、参加された方がOTを使ってくれるといいなあ～と思いました。
- ・OTの視点での方法と午前と2つの側面で見られて面白かった。

* その他 *

- ・OTの視点、感覚運動の視点。参考になりました。
- ・感覚運動機能での視点から見ると、また別の支援が見えてきました。
- ・家庭でできる工夫や、ハッとする発想、これが必要。柔軟な発想・考えを忘れずにいたい。

(3) ワークショップ

* 保護者 *

- ・みなさんの視点、感じ方、考え方等、いい勉強になりました。
- ・初めて受けて、先生方の目のつけどころにビックリしました。
- ・いろいろな職種の方のお話がお聞きできて、よかったです。

- ・各専門家の方の意見も聞けて、大変参考になりました。
- ・初めてのワークショップだったが、プリントやノート等からいろいろな読み取りができることが分かって良かった。これから家でもそういう視点でも振り返ってみたいと思う。
- ・初対面の方々ばかりでしたが、1つの課題に向かって6人で意見を出し合う…という、いなほの会では初めての試み、新鮮でした。
- ・資料から気づけることがたくさんあり、勉強になった。具体的に支援に活かせることがたくさんあった。

* 教員 *

- ・1つの事例を深くとらえられ、良かった。
- ・保護者の方から、ご自身の経験を交えた分析をしていただき、質の高い論議ができました。ビデオは、できれば了解をいただいて、音声も公開していただきたいです。
- ・ビデオや作文、プリントから子どもの困っている所を分析する、このワークショップはとても勉強になりました。細かく分析することで、支援の具体的方法が見えてくること…グループでいろんな人の意見を聞くうちに、なるほど…と、いろいろな視点から子どもに迫ることができました。他のグループの報告、先生方のご指導で、より深まりました。
- ・自分たちで意見を出し合い、その後講師の先生方から補足していただくことで、より分析の仕方・指導法について深く学ぶことができました。大変有意義でした。
- ・普段大目に見てしまっていた行動の背景には、たくさんの方が含まれているということが、改めて分かりました。その点を問題視するのではなく、理解のために、通常学級の担任にも伝えていきたいなあと思いました。
- ・授業場面やプリント・テスト類からその子の特性を考えるのは、普段あまり無く（どっちかというところ、検査に頼ったり、すぐに外部に頼っていました）良い経験でした。校内のケース会議にも、この形をアレンジすれば使えそうです。
- ・VTR・資料が具体的で、ありがたかったです。プリントひとつで多くの課題が見えてくるので、やってみようと思いました。
- ・教員として、子どもの実態・困り感を探ることが多いので、参加して良かったです。
- ・事例を基に考えが出せ、それについても回答があり、分かりやすかったです。
- ・このような方法は、大変良いなあと思いました。学校での研修でも使わせていただきます。
- ・時間配分が良かった。講師の説明がたくさん聞かれて良かった。グループ内も短時間に頑張って話し合った。

* 作業療法士 *

- ・全員が意見を出して考察を深めるには、時間が短いかなと思いました。
- ・1ケースを共有したため、他の方々の視点が分かり、とてもよかった。特に先生方の視点が分かり良かった。

* その他 *

- ・テキストデータのみでたくさんの情報が得られることを、再確認しました。今後のケース検討に活かしたいです。
- ・事例をただ見たり聞いたりするだけでなく、自分で考えることによって、また一段と気づきがあったような気がします。自分が気づかない所を気づかされる勉強になりました。

(4)「特別支援教育」「発達障害者支援法」に望まれることやその他ご意見・ご感想をお聞かせください。

保護者

- ・私立の高校の支援教育を考えてほしいです。
- ・先生の質と数が増えてほしい。地域で自然に生きて、生きやすい環境に社会環境を整えてほしい。
- ・一般の授業でも活用してほしいです。
- ・本当の意味での特別支援教育、まだまだです。1人1人の個性や特性を理解し伸ばす教育は、なかなか普及していないのが現状だと思います。今の横並び一直線の教育の中で、本当の意味での特別支援、難しいですね。
- ・通常の学級の中で支援が必要な子の支援をどうしていくか悩んでいる現場が多い。すぐ支援学級へ個別へといってしまうのではなく、通常の中で居場所があるかどうかを確認し、通常学級担任のスキルを高めるものであってほしい。
- ・グレーゾーンの子にも厚い支援。

*** 教員 ***

- ・ありがとうございました。1日あっという間でした。
- ・高校への支援で苦勞しています。
- ・OT、PTなど、なかなかお聞きする機会がないので、県内の方からもできたらお願いできますか。講演会これからも参加させてください。ありがとうございました。

*** 作業療法士 ***

- ・今後、医療現場と教育現場の連携が図れ、少しでも良い支援が子どもさん達に届くことを望みます。
- ・担任の先生は細かく見るのは難しいと思います(人数も多いので)。級外の先生が対応してくれる学校・そうでない学校、通級がある学校・そうでない学校、支援学級の有無など、子ども達にとって現況は明らかに不平等と思います。
- ・特別支援クラスで1人ずつ関われば伸びる児が多くいるように感じるので、早期に全学校への設立をお願いしたい。
- ・もっとOTは、学校教育のことを知る必要があると思った。先生方のNeedsが少し分かった気がします。

【その他】

- ・作業療法士を活用してください！

*** その他 ***

- ・人材の育成、安定供給が課題だと思っています。就労支援も同時に展開しなければ！！と考えています。

